

第54回 横浜市屋外広告物審議会会議録	
議 題	<p>審議事項</p> <p>議事1 役員の選出について</p> <p>議事2 デザイン審査部会の設置について</p> <p>議事3 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例</p> <p>(1) 関内周辺のデザインマンホールの設置について</p> <p>(2) 横浜スタジアム照明塔への広告幕の設置について</p> <p>報告事項</p> <p>報告1 2014年の横浜サインの取組状況について</p> <p>報告2 禁止地域における展望不可案件について</p>
日 時	平成27年1月23日(金) 午前10時00分から12時00分まで
開催場所	横浜市庁舎5階 関係機関執務室
出席者 (敬称略)	<p>委 員：秋山桂子、岩村和夫、大川一平、河住志保、菊竹雪、松野勲、村上弘一、山崎洋子、山中考文</p> <p>事務局：小池政則(都市整備局地域まちづくり部長)、飯島悦郎(都市整備局景観調整課長)、岩松一郎(都市整備局景観調整課景観調整係長)</p> <p>説明者：関係事業者・株式会社横浜DeNAベイスターズ デザイナー</p>
欠席者 (敬称略)	委 員：平山正晴
開催形態	公開(傍聴者なし)
決定事項	<p>議事1：会長に菊竹委員、副会長に岩村委員を選任した。</p> <p>議事2：デザイン審査部会の設置が承認された。また、委員に岩村委員と菊竹委員と松野委員の3名が選出され、岩村委員を部会長に選任した。</p> <p>議事3(1)：JR関内駅周辺の設置については、デザイン調整をする前提で承認され、デザイン審査部会で認められた内容とすることとした。なお、日本大通りへの設置については、その必要性を引き続き慎重に検討することとした。</p> <p>議事3(2)：横浜スタジアムの照明塔への広告幕の設置について承認された。</p>
議 事	<p>開 会</p> <p>委員紹介</p> <p>資料確認</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>ただいまから第54回横浜市屋外広告物審議会を始めさせていただきます。横浜市都市整備局景観調整課長の飯島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の事務局は、私、飯島と、岩松係長が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それから、会長・副会長が選出されておられませんので、それまでの間、私が議事を進行させていただきます。</p> <p>それでは、会の開催に先立ちまして、審議会の成立について確認をいたします。本日平山委員が欠席でいらっしゃいますが、委員10名中9名が出席されておりますので、横浜市屋外広告物条例規則第31条第2項に基いて、委員の半数以上の出席ということで審議会は成立しております。</p> <p>議 事</p> <p><b>議案1 役員の選出について</b></p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>議案の1の審議に入りたいと思います。審議会の会長と副会長を選ぶ、役員の選出についてです。</p> <p>11月末をもって審議会の任期が終了し新たな委員が選出されたため、これからの2年間の会長と副会長を選出する必要があります。</p> <p>横浜市屋外広告物条例施行規則第30条第2項の規定により、会長及び副会長は委員の互選によって定めることになっております。皆様方の中で自薦・他薦など、あるいは何かご意見はございますか。特にご意見がないということであれば、事務局のほうで案を提案させていただこうかと思いますが、よろしい</p>

でしょうか。

事務局では、今まで副会長をしていただいていた菊竹委員に会長をお願いしてはどうかと思っております。また同様に、審議会の経験も豊富な岩村委員に副会長になっていただくということではいかがかと考えておまして、菊竹委員に会長を、岩村委員に副会長という案を提案させていただきます。皆様、いかがでしょうか。

(了承)

**(事務局)**

それでは、異議がないということでございますので、菊竹委員に会長を、岩村委員には副会長をお願いしたいと思います。

それでは早速ですが、これからの議事の進行は新会長とされます菊竹委員をお願いしたいと思います。

[会長・副会長席移動]

**(菊竹会長)**

菊竹と申します。前委員長の中下先生が大変リベラルで整然とこの審議会を運営されていたので、私にはとても荷が重いのですが、前委員長の姿勢を引き継いで、皆様の活発なご意見が出るように取り仕切ってまとめてまいりたいと思いますので、皆様のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

**(岩村副会長)**

副会長を仰せつかりました岩村でございます。横浜というのはデザインに非常に優れた街であるという全国的な評価もございしますが、菊竹会長を補佐して、それをさらに高めていくことにお手伝いできればと思いますが、よろしく願いいたします。

**(菊竹会長)**

よろしく願いいたします。

**議案2 デザイン審査部会の設置について**

- ・事務局からデザイン審査部会の設置について資料に基づき説明

**(菊竹会長)**

ありがとうございます。デザインに関係する案件に対処するため、部会を設置したいということでございます。部会のメンバーは委員から会長が指名するということになっておりますが、皆様、何かご意見ございますでしょうか。ご意見がないようでしたら、事務局の方から何かご提案がございましてでしょうか。

**(事務局)**

皆様が部会の設置を認めていただけるということを前提にですが、デザイン関係ということと都市景観とかに詳しいということで、事務局としては岩村委員と菊竹委員と松野委員の3名をお願いしたいというふうに考えております。

**(菊竹会長)**

それではまず、この部会の設置について、お認めをいただくということでよろしいでしょうか。

(了承)

**(菊竹会長)**

それでは皆様、よろしければ、私も含めて大変僭越なのですが、3名を部会の委員といたしたいと思います。これについてもいかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

(了承)

**(菊竹会長)**

それではこの3人、松野委員、岩村委員、私のメンバーで部会を設置させていただきます。さらにもう一つ、部会長を部会のメンバーから互選することになっております。これについても、事務局から何かご提案ありますでしょうか。

**(事務局)**

菊竹委員が会長に就任されておりますので、岩村委員のほうにデザイン審査部会の部会長をお願いしたいと思います。

**(菊竹会長)**

適任者だと思いますので、皆様いかがでしょうか。

(了承)

**(菊竹会長)**

それでは、デザイン審査部会のメンバーを事務局の案のとおりにさせていただきたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

### 議案3 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例

#### (1) 関内周辺のデザインマンホールの設置について

**(菊竹会長)**

議案1、2が済みました。議案3、横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例ということで、(1) 関内周辺のデザインマンホールの設置について、事務局から説明をお願いいたします。

**(事務局)**

事務局で簡単に概要を説明させていただいた後に、DeNAベイスターズさんに詳細な内容を説明していただきます。

・事務局から資料に基づき説明

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

本日、ベイスターズから、デザインマンホールという新たな取り組みと、後ほどもう一つの議案となっている照明柱、スタジアム周辺の幕のデザインをお持ちしております。

まずデザインマンホールについてですが、今回こちらの周辺エリアの景観に合わせて、ベイスターズとしてもしっかりと市民の皆様にとって楽しいものを提供していこうということで、ベイスターズのデザインマンホールを取りつけさせていただこうと考えております。こちらの関内エリアは景観を重視しているということなので、それに沿ったデザインと内容であるというところで進めております。概要をご説明させていただきます。

ベイスターズとしては、ここ3年間でおかげさまで動員数も42%伸びまして、多くのお客様にご来場いただいております。その中で、地域と一体になって取り組んでいる活動として、「I ☆ (LOVE) YOKOHAMA」というスローガンを使っているのですが、こちらをキーワードに皆様と一体になって活動しております。こういった街なかにフラッグを掲示させていただいたり、さまざまなイベントに出たり、飲食店舗の皆様と応援組織をつくったりという活動をしております。

今回、デザインマンホールが横浜市民の皆様、会話のきっかけになったり、球場にご来場いただくようなきっかけになったりというところでご提供したいと考えております。横浜市にとっては、老朽化したマンホールの取りかえですとか、よりこのエリアが魅力的になるものを情報発信というところで。今回デザインを担当していただきましたデザイナーからも説明させていただきます。

**(説明者) デザイナー**

今、写真でごらんいただいているデザインがご提案させていただくデザインなのですが、左のものが、ベイスターズが意向としては当初持っていた、もっとベイスターズの広告に近いものだったのですが、もう少し横浜の景観に合うような、しっかりこの場所の文脈を踏まえたようなものがふさわしいだろうということで、右のご提案をしています。基本的にこのマンホールでやろうとしていることは何かというと、ベイスターズの広告というよりは、横浜をいかにベイスターズが愛しているのかということを示すということに、ベイスターズ側としてはコミットしたいというふうに思っております。この周囲にあるマンホールにそれぞれ背番号のような番号をつけていって、その番号は年号と合致していたりするのですが、横浜が誇るべきもの、最初の鉄道が開通したのが横浜からですとか、最初の公園が実は横浜公園であるとか、最初の大通りが日本大通りであるとか、実は小松菜の生産量が日本一であるとか、何かそういうちょっと横浜市民でも知らないような横浜の誇りを、マンホールを見てわかっとうというかふわっと理解してもらった上で、それをきっかけに横浜をもっと好きになってもらえるような、話題を提供できるマンホールになればということでこのデザインをつくりました。デザインの説明は以上です。ありがとうございます。

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

今後、こういう形で街の中に設置をしたいと考えておまして、まずは3月末までにJR関内駅周辺に20カ所強、その後はまた審議になるかとは思いますが、日本大通り沿いですとか関内駅周辺施設、横浜公園の中といったところに展開できればというふうに考えております。

**(菊竹会長)**

審議に入る前に、最初に私のほうから幾つかお伺いしてもよろしいでしょうか。まず、「72」の絵を出していただいてもよろしいでしょうか。

今、ご説明がありましたが、「72」が少しわかりにくいように思います。どういう意味を持っているのか、また今後どういうストーリーで、いくつ、どこに設置予定か等の計画についてご説明をお願いします。それに、鋳鉄に色彩をつけるという方法をとられる箇所があるようです。このような例は、全国にほとんど見られない状況だと思います。鋳鉄に色彩をつける理由、技術的根拠、今後の管理方法についてもご説明を頂けますか。

**(説明者) デザイナー**

まず、番号の件で、一つに横浜スタジアムにたくさんの動員があるということがあって、そこと街をもっと接続したいということがあるわけです。横浜スタジアムに行ったらすぐ帰って、ということではなくて、そこの人たちが街ににぎわいをしみ出していくようなことをしたいということがありまして、一部野球的なアイコンということで背番号がモチーフになっています。その上で、それがただの背番号ではなくて、あの何番のものはこの横浜の誇りと結びついているという、要するに、横浜の誇りに勝手ながら一つ一つ背番号をつけてしまおうということがこのコンセプトになります。

**(菊竹会長)**

「72」という意味について、もう少しご説明ください。

**(説明者) デザイナー**

例えば1868年に我が国最古の公園として横浜公園がつくられているのですが、それについて例えば68番をつけるとか。1868年だからですが。あるいは、電信創業の地がここなのですが、69年だから69番としてそれをつけるとか、年号と対応させていこうかと思っています。

**(菊竹会長)**

それから、この周りのついで、デザイン概要をご説明いただけますでしょうか。

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

こちらの周りについては、今、業者さんからサンプルをいただいております、技術的にこちらの色は出せるかどうかと検討はしているところです。まずデザインの一環として、周りが黒の中に浮き出て見えてしまうところは逆に街の中で際立ってしまうので、1色でトーンをつけたほうが良いというところで、周りもこの色にしています。もう一つは、技術的にしっかりこの色が出せないと、やはり質感の問題であったり、今後の経年劣化というところも出てくるので、そこに関しては、今、業者とやり取りをしています。なので、これは我々としてはベストの案だと思っておりますが、その色がしっかり出せない、もしくは質感がキープできないというのであれば、こちらの周りについてはほかの事例と同じく、鋳鉄のままにいかざるを得ないのかなというところはあります。

**(菊竹会長)**

ありがとうございます。先に質問させていただきましたが、委員の皆様からご質問・ご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

**(松野委員)**

横浜事始めを使うというのはよくやる手なのですが、その年号をマンホールの番号にするというのは、ちょっとこじつけというか、いまいちわかりにくいと思います。例えば、ジャイアンツの3番みたいに永久欠番があればその選手だといって番号ということはわかりますが、例えば年号の最後のほうを端折って番号にするというのは何か遠回しのような気がします。

僕はバス停広告のほうにタッチしていますのでその観点からいきますと、元来横浜の中でベイスターズのバス停広告が掲示されるスペースというのは、野球場の周りです。MMあたりは、MMの条例からくるのだと思うのですが全く受け付けないのです。そんな関係で、もしかかなりレアな情報をベイスターズが入れるのであれば、球場の周りのエリアで、例えばマンホールにしたり何々したりやってもらえたほうが、より広告の提出者としては納得がいくのではないかと思います。番号は、判断するのにいろいろなことを考えすぎて、何だかよくわからなくなってしまうのではないかと気がなっています。でしたら、例えばここが一番最初にあるベイスターズのマークだけのマンホールがあつていいのではないかと思います。それが野球場の周りがあると。もうそれで十分だと思います。横浜を愛して

る、愛していないとか、そんなのはベイスターズ自身が既にもう横浜の風景の1つなので、妙なことは考えないほうがいいと思います。野球で勝つことだけを考えてほしい。

では数字を入れることは何だろうかかとふと考えてしまいます。ひょっとしたら98年に優勝したときの98なのか、その下にReturn to 98とか、そういうベイスターズにまつわる話のほうがいいと思います。何か、わざわざ横浜にと。よくみんな横浜のこの仕事をし始めると、そこに立ち入って結局つまらないもの考えて出すのだけれど、もう少しベイスターズを大切にしながら、その辺をいろいろ考えてほしいと思います。

あと一つ気になったのが、ベイスターズはロゴのみだけれども、例えば「I ☆ YOKOHAMA」のロゴを最近押していますが、あれでもし「I ☆ YOKOHAMA」で、ベイスターズのマークがどんと来る。そうすれば、これは予算の関係で何種類・何個つくるか知らないからあれですが、例えばその下に、横浜を象徴するシルエットでよくみんなが使うのはMMのロゴ、ランドマークだったり、中華街の門だったり、いろいろとしますよね。そういうものが一つ一つでもいいし、メインに来るようなレイアウトにするようにして。例えば球場からMM地区だったら、MM地区のマークがそっちのほうに向かってぼんと入っていると、大通りだったら球場のほうに向かって中華街の門があるとか、意識的に球場を意識させる、それで「I ☆ YOKOHAMA」のタイトルで、それでしかもベイスターズのマークがどんと入っているというようなものでつなげてほしいです。今さら事始めをやられても、ちょっと何だろうなという感じなのです。そのように感じました。

#### **(岩村副会長)**

松野委員とほぼ同じ意見ですが、まず原則としてマンホールは背景に入っていてほしいんですよね。例えば、写真でいただきましたが、このぐらい目立ってしまうマンホールというのは僕はうるさいと思います。仮にこれを認めたとする、ほかでこういうものがどんとできてくるという可能性がありま。それは避けたい。それからもう一つは、マンホールだけ取り上げて考え始めると、いろいろな考えが出てくるのはわかります。しかし、ここに「Railway」というのが何の意味かよくわからない。つまり、新橋・横浜を最初に鉄道が走ったというのはわかりますが、それとベイスターズとはほとんど関係がない話ですよ。しかもここにいらっしゃる方は、既に横浜に来ていらっしゃるわけで、横浜がどういところかというのは、皆さん多かれ少なかれわかっている。それをもう一度、だめ押しのように、マンホールで情報を伝えるという意味がほとんどないと思います。「72」という番号も何の意味か全くわからないし、1872というふうを考える人はまずいないと思います。それと、マンホールというのはチューインガムとか何かで物すごい汚れるので、管理が大変です。ですから、本当は鋳物の色がいいのです。きょうもつらつらマンホールを見ながらここまで来たのですが、歴史的に見てマンホールというのは、すぐれたデザインが多いです。横浜でもそうだと思います。そのすぐれたデザインを、あえてこういう白地の数字にする意味というのがよくわからない。しかも、それが汚れるということが前提で考えると、やはりマンホールというのはそうじゃないだろうと思うのです。結論から言ってしまう松野委員と全く同じで、ベイスターズのこのマークはすばらしいマークなので、ほとんどそれだけでいいと思います。横浜の意味であるとか横浜を愛する話というのは、必ずしもマンホールにそれを全部期待するのは、僕は過剰だと思います。マンホールというのは本当に背景で沈んでほしいのです。よく見ると「お、こんなことが書いてあるんだね、こんなデザインだね」というのがわかればいいということだと思います。先ほど図面でお示しになりましたが、これからどんどんこれをつくっていくとなると、さらにそれがうるさくなっていくというふうには私は思います。それから、「I ♥ NY」(アイ・ラブ・ニューヨーク)の場合というのは、ハートがLOVEですよ。 「I ☆ YOKOHAMA」(アイ・スター・ヨコハマ)って、まずはラブとは読めませんよね。ですからこれはそういうふうには伝わればいいのかと思いますが、恐らくアイ・ラブ・ヨコハマというふうには読めないだろうと思います。そういうことも含めて、余りいろいろな意味をここに重ねる必要はないだろうと思います。素直にベイスターズさんのこのマークをつけていただくというほうが、はるかにわかりやすいだろうと思いますし、そういう意味での訴求効果もあるのではないかと思います。ですから、色に関して言うと、ブルーはやはり紫外線で飛んで、将来的には汚い色になります。もちろん色の質にもよりますが、特に薄い青というのはすごい飛びます。それから白は間違いなく汚れます。それを管理がだれがやるかということも含めて考えると、色に関してはできるだけ現状の鋳物の色を使っていたほうがいいだろうと私は思っています。以上です。

#### **(秋山委員)**

教えていただきたいのですが、これは基本的にはどういうあれになっているのですか。広告としてどこかが、ベイスターズさんがそれを市に払われるわけですか。

**(事務局)**

設置費用の一部をベ이스ターズさんがお持ちになります。

**(秋山委員)**

ちなみにそれは幾らぐらいなのですか。

**(説明者) 横浜D・NAベ이스ターズ**

こちらの地図に記載してあるものを全部やったとしたら、総額で600万円です。

**(秋山委員)**

そうですか、わかりました。私も2人のご意見に賛成なのですが、こういう数字がぼこぼこ下に出てきてしまうと、これが何の数字かというのが見ても本当にわかりません。72だとか26だとかいろいろな数字が足元に来ると、それだけで私はこれを見て混乱してしまうと思います。まず7丁目なのかどうか何とかといろいろなことを思ってしまうと、これがベ이스ターズさんの背番号を意味したものだということは、ちょっと想起しないと思います。それから、本当に「Railway」とかこういう横文字で書いてあっても、皆さんがそれをわかるわけではないですし、その辺のところのあれがあいまいだと思いますのと、先生方がおっしゃっているように、ベ이스ターズさんのこのロゴのほうがよっぽどインパクトがあると思います。以上でございます。

**(説明者) デザイナー**

逆に、ベ이스ターズという文字がぼんと大きくなると、非常に広告的なニュアンスが強くなると思います。

**(松野委員)**

それでいいと思うのです。

**(岩村副会長)**

逆にそれでいいと思いますよ。

**(松野委員)**

あのスペースの中で、さっきレアな感じをもっと出してほしいと言っているのは、要するにがんがんあのエリアの中がもうベイスターズ一色でいいのではないのでしょうか。

**(説明者) デザイナー**

あのエリアというのは。

**(松野委員)**

いわゆる球場周りです。

**(説明者) デザイナー**

どちらかというと、横浜市の景観に配慮した場合に、ベイスターズ色が過剰にならないように考えています。街の公園も確かにベイスターズのすぐ隣にあるものですが、別にベイスターズとかかわらない人もいらっしゃるの、そういった人たちに向けた場合に中庸な点というか、その人たちにとって公園がどういうふうに見えてほしいのかということもあると思います。その考え方の間で、こういうデザインになっているというところが一応あります。

**(松野委員)**

では、ちょっと言葉をつけ加えますが、そういう場所に関してはもう1個押してほしいのです。要するに、今、マンホールの位置の話がされていましたが、例えば公園とか大通りみたいな別なもう一つの要素にパンしていくときに、今度はマンホールが目立ってはまずいのです。大通りは大通りとして、きちっとしたそこに合ったマンホールがあってほしいです。ただ、あの野球場のエリアの中ですよね。公園といってもまだ球場寄りのほうのマンホールに関しては、ベイスターズそのもののマンホールがあって構わないと思うのですが。

**(菊竹会長)**

遮って恐縮です。ご説明がなかったのですが、今後の設置予定の場所と、最後の資料にあります、今ご提案いただいたそのものをすべて設置されるご予定なのか、スケジュールについてご説明をいただいて、今、松野委員からご提案ありましたことの議論を深めてまいりたいと思います。

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

まず、10と書いてあるスライドがございますが、そちらに関しては最大でJR関内駅周辺22カ所というところで、ことしの3月末までに設置を希望しております。

**(菊竹会長)**

22カ所というところですか。

**(説明者) 横浜D○NAベイスターズ**

はい。こちらに関しては横浜公園内ではなく、市役所の周りが中心になると考えております。続きまして、スライドの11ですが、これは4月以降横浜市様と協議の上、場所を検討していきたいのですが、我々としては、やはりこの地区の最大の景観エリアとして誇れる場所としては日本大通り、こちらも最大では22カ所と。

最大で、と申し上げているのは、既にいろいろな理由で新しく取りつけた場所もございますので、そこに関しては別途協議の上ということで考えております。日本大通りに続きまして、さらに関内駅周辺ということでこちらも最大で14カ所。一番最後のスライドで横浜公園の中。こちらも最大で53カ所ということで、トータルで約100カ所というところで、今後、話を進められればと考えております。

**(事務局)**

補足します。今、話もありましたように、割と最近に設置したマンホールもこの中にはかなりあります。横浜公園などは数年前に再整備しております。そういうこともあって、恐らく具体的にこれが全部できるというわけではなく、この中でできるところをということで、その辺の調整はこれからになっておりますので、具体的な場所はもうちょっと時間がかかるかと思えます。

**(大川委員)**

これは、あくまでも予定だということですね。

**(説明者) 横浜D○NAベイスターズ**

はい。

**(事務局)**

最大でこれだけやればというのがベイスターズさんのご希望だということです。

**(大川委員)**

先ほど来からお話がありますが、私もこのマークだけでいいと思います。横浜ですから横浜を応援しましょうよ。いいのではないですか。72も43も65もわからない。横浜ベイスターズのこのマークでよろしいのではないですか。看板屋としてはこれはすばらしいと思います。

**(説明者) 横浜D○NAベイスターズ**

ありがとうございます。

**(事務局)**

ベイスターズのマークはいいのですが、やはりこれだけということになると広告そのものということにもなってきて、禁止を解除してまで公共物につけるといのはどうかと思っているところはありません。景観に配慮して、なおかつ地域の活性化につながるようなものとして、横浜にちなみ横浜らしさを出している中で、ということを検討されて今日の提案になっていると思いますので、その辺もご理解いただければと思います。

**(大川委員)**

1つの提案としましては、このベイスターズのマークをつけたマンホールに、ここから右に300メートルで中華街、左に行くところそこ、というのを入れるということもいいのではないですか。そういう形にすると。

**(菊竹会長)**

山崎委員、どうぞ。

**(山崎委員)**

横浜のことを知るきっかけになるのではないかと話題づくりとか、お気持ちはすごくわかるのですが、余りにもわかりにくすぎておもしろくないといえますか。この「Railway」というところの上の文字などは、多分読めないのではないかと思います。

**(説明者) デザイナー**

かなり大きいものなので。

**(山崎委員)**

何か、さっき大きくても読めなかったのですが、せめて1872と入っていればこれが西暦だな、何の年なのだろうとわかるのですが、この「72」だけだともう考えようという気にもならなくて、正直言っておもしろくないのです。それと、鉄道が開通したということをもそんなにみんなが興味を持ってくれるだろうかという。球場に来る人は野球観戦者が多いのですから、どうせであればせめて野球に関連するような何かであればいいと思います。それと、大変な方向音痴の私としては、何かマーク以外に入れるのであれば、よそからくる人も多いわけですから、今、大川委員がおっしゃったように、こちらが中華街とかこちらにもうちょっと行ったら何々とそういう示唆をしてくださったほうがありがたいです。

ちょっと凝り過ぎで、むしろ横浜を余りよく知らない人が考えてしまったのだなという気がするのです。こんなに凝らなくてもいいのではないかと思います。

**(松野委員)**

横浜の人というのはもう少しおしゃれなのです。その辺はもうとっくにクリアしていて、もう一つ遊びが欲しいわけです。数字ということで、例えば横浜球場ができたところとかゲーリックが来たときとかを考えてみましたが、そんなことはもう横浜の人はクリアしてしまっているから関係ないので、もう少しコンセプトをきちっと感じさせる何かを提供してほしいです。

**(山崎委員)**

クリアというか、横浜の人は余りこういう歴史に興味を持たないです。よそからくる人も、やはり、同じです。もっとリアルタイムで興味を持てるものにしたほうがいいと思います。余り教科書に書いてあるようなことではなくて。

**(村上委員)**

議案の3(1)に経緯が書いてあった中に、広告物に該当するというようなことになれば、バスと先ほど言われたように、このマークそのものは、今、事務局が言われましたが、広告物のような感じになってしまうのでしょうか。何かもう少しうまくアレンジして、今、大川さんが言われたような方向を示すとか、何かそういうものにされたらどうなのでしょう。あるいは、横浜の有名な場所をセットして、ベイスターズさんと両方出して案内するとか。わからないのですが。

**(菊竹会長)**

ご苦労いただいていることとは思いますが、この審議会ではネガティブな意見が主流のようです。何かほかにご意見はございますでしょうか。

**(河住委員)**

質問なのですが、新横浜地区でマリノスのデザインマンホールを設置したときは、どのようなデザインでしたか。

**(菊竹会長)**

ご説明いただいてもよろしいでしょうか。

**(事務局)**

新横浜地区の場合には、日産スタジアムの方向に向かう矢印が真ん中に入ったデザインになりました。わかりにくいのですが、このようなトリコロールカラーのものです。

**(河住委員)**

中にはマリノスのキャラクターか何かですか。

**(事務局)**

そうです。マリノスケくんが入って、矢印があります。

**(河住委員)**

すべて日産スタジアムのほうを案内しているような形にしたということですね。

**(事務局)**

はい、指しているという形です。

**(河住委員)**

これは、マリノスのキャラクターであれば広告そのものではないというようなことですか。

**(事務局)**

実は広告で構わないのですが、公共空間に出るところで少し公共性を持たせる必要があるということなのです。今回ベイスターズさんも、私どもが何も言わずに初めに、やはり公共空間に出すものなのでベイスターズ色を強めたくないということで、この背番号という形でご提案されています。ベイスターズさんの本音としては、ベイスターズのマークそのものをつけたいというのがあるのだと思いますが、やはりマンホールという位置づけが公共空間なので、市民にとりまして、広告部分が公共空間を占めるということに対して抵抗がある方もいらっしゃるもので、こういうデザインになっているという経緯が1つございます。

**(松野委員)**

多分思考の段階で、公共施設に広告を載せるということで、その辺をちょっと考えてほしいという話になってきたかと思います。そこで、では「I ☆ YOKOHAMA」というもので表現しようということになってきて、その次にもものづくり、もの事始めとなっていったのだと思いますが、そうではなくて、その辺は今からやっても余り意味のないことだから、公共の施設のもの、そのふたの上で何が行われているかということを考えてもらえれば。僕が一番最初に言ったのは、例えばどちらの方向を向いたらMMの方



向だったり、こちらの方向を向いたら中華街だったというのを、もしイラストで見せるのならばそのシルエットを入れていくことではないかなという話なのですが。要するにふたの上のこと、公共性ということを考えてほしいのです。そのふたのところでは何がなされているか。だから、今のところ先ほどから一番話が出ているのは、方向を指示している、ということなのかなと。その指示がしてあれば、それこそそのマークがガーンと出てもうまい組み合わせになっていくのではないかなと思うのですが。

**(秋山委員)**

これはマンホールではありませんが、たしかボストンの街の下のところ、行く場所や名所みたいなのが、それを見ながら行くと自然にそこに行けるというようなものが、ガイドブックにはよく書いてありますよね。そういう形で、何かそういう意義もあるのかなとは思いますが。

**(菊竹会長)**

広告物の前に3秒以上人を滞留させないということが、屋外広告物制作の絶対条件です。今回、数字の他にいろいろな情報が入ると、人によってはそこにとどまるという現象が起こる可能性があるわけです。その点を考慮頂き、3秒以内に情報を的確に伝えるということを重視して内容をお考え頂ければと思います。さて、3月までという期限でこのご提案をいただいておりますが、関内周辺に設置するためには、いつまでにこの案を決めなくてはいけないのでしょうか。

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

発注の期限として2月いっぱいでしたか。

**(事務局)**

2月末です。

**(菊竹会長)**

そうですか。きょう日本大通り周辺を周ってまいりました。既に路面がきれいに整備をされておりまして、路面上には横浜の街を示すタイルが規則的に設置されています。関内の駅周辺、市庁舎周辺も同じような取り組みで整備がされています。そういった状況のなかで、このマンホールが加わるということをお客様にお考えをいただきたいと思っております。デザインについては例えば部会で引き続き審議をすることですが、関内駅周辺の設置については、3月までということですので、お認めしてよろしいものか少しご意見をいただければありがたいと思っております。

先ほど松野委員から、横浜公園の中は、日本庭園周辺は別として、スタジアムの周りについては逆にベイスターズ色を出したものにしてもいいのではないかと、というようなご意見も出てまいりました。しかしこれは4月以降に設置のご予定です。また事務局から、既に新しくマンホールのふたが更新されているので、更新されるまでには少し時間がかかりそうだというようなご説明もあったかと思っております。

**(岩村副会長)**

よろしいですか。繰り返しになりますが、やはりマンホールは背景であってほしいというふうに思います。それで、写真にあるような形で、白地の数字が至るところに出てくるということは避けたいなと思います。では何のために字や広告を入れたマンホールをつくるのかということですが、今、会長がおっしゃったように、既に横浜には相当いろいろなサインが路上にあるわけです。ですから、どの方向に行けばどうだという話も、個人的にはそんなにまたマンホールに加えてあげる必要もないなというふうには思っています。むしろ、やはりベイスターズというのは確かに一企業の存在かもしれませんが、これはもう全国的に知れ渡っている名前でもありますし、横浜のフランチャイズであるということも皆さんはよく知っているわけです。ですから、そういう場所に来たのだということが確認できればいいということですので、今おっしゃったように3秒ぐらい、あるいは5秒ぐらいでわかればいいと思います。

私個人としては、ではベイスターズのこのマークで何がいけないのだろうと思うのです。これは屋外広告物になるのかもしれませんが、一企業が何かを売るためにそこに何かを表現するというのではなくて、かなり公共性が高い屋外広告物だと思います。まして、余りいろいろな情報を中に入れ込むということは、逆に効果が弱まってしまうということもありますし、その表現自体が伝わらないということのほうが、むしろ問題だろうというふうに思います。確かに、広告物的なニュアンスを弱めるということではいろいろとお考えになったのだろうと思いますが、逆に、僕はもうベイスターズを前面に出してしまっているのではないかなと思います。ただし、色とかパターンに関しては、できるだけ鋳物の色をそのままにいただければいいかなと個人的には思います。それは、先ほど申し上げたように、白だと汚れるということもありますし、メンテナンスが大変だということもありますし、それから青だと飛んでしまうということもあります。いろいろな理由がありますが、つらつら思うに、やはりマンホールというのはデザイン性が高いものが、全国的にも非常に多いです。例えば横浜のマンホールを見ていただければわかるのですが、非常にデザイン性が高いです。それに負けないぐらいのものだとすると、ここに

出てきたものでいうとベイスターズのロゴがそれに匹敵するのだろうというふうに思います。以上です。

それと、場所に関して言うと、ちょっと多いかなという気もするのですが、ただこれはこの小さい地図で見ていると多いように見えるのです。ただ実際はかなり距離がありますから、これぐらいでもいいのかなというふうには思います。

**(説明者) デザイナー**

少しお話しさせていただいてよろしいですか。皆さんのお話を聞きながら、ちょっとご意見をいただきたいことがあります。この案は一たんなかったことということで考えた場合になのですが、横浜市さんのお話などいろいろ聞きながら今回デザインをしまして、それに伴ってベイスターズのマークがどんと出ると、先ほど懸念があるというお話もありましたが、そういったことを踏まえて、こういったアイデアはどうだろうかというもののご意見をいただきたいのです。想像して見ていただきたいのですが、例えばベイスターズはやはり星が非常に強いアイコンです。「I ☆ YOKOHAMA」のアイ・スター・ヨコハマも、そういうことなのです。この「I ☆ YOKOHAMA」のマークは、僕はかかわっているプロジェクトではないのですが、とにかくそういうことがあるということもありますから、例えば真ん中に星があるという状況があり、先ほど言われていたみたいに、星は方向を指し示せるので、周囲に、こちらに行く中華街だよみたいなことが小さい文字と小さな矢印であり、下にベイスターズのロゴがこれぐらいの大きさで入っているというようなことであれば、先ほどの景観的に余りに広告感が出てしまうということも解決できそうであるし、しかも先ほど言われていた、横浜に来ると迷ってしまうということも何とかできそうであるし、しかも横浜の景観との調和みたいなところもうまくいけるものなのではないかなと思いながら話を聞いていたのですが、いかがでしょうか。

**(松野委員)**

結構おもしろくなってきましたね。やはり星つながりというか、言ってみればビジュアル的にタイポグラフィで出すということです。そういう意味ではおもしろいと思う。さっきの73だか何かよりもはるかに大人になっていると思います。

**(秋山委員)**

しゃれてますよね。

**(説明者) デザイナー**

やはりそういうデザインマンホールは各球団でやっているのですが、余り違いはないといえますか、いろいろな球団のそういうのを見ているし、デザインマンホールも見ているからなのですが、そこはちょっとベイスターズは一步おしゃれなことをしたいというのがあるといえはるのです。

**(松野委員)**

ありますよね。その他球団は今まであったグッズみたいなもので処理するのだと思います。ところが横浜というのは、もともと大洋ホエールズを持ってきたときに別当監督を連れてきたから、あれですごく活きのよさというのを我々横浜の市民は納得したのです。本当は王ではなかったかと言っていただけれど、その辺の納得していった流れというものを感じてもらうと、もう一つひねってほしかったわけで、そういう球団になってほしいわけです。

**(説明者) デザイナー**

ある意味ではひねり過ぎてしまったのです。

**(松野委員)**

だと思ふ。

**(説明者) デザイナー**

そのベイスターズを訴求をしたいということに対して、いや、横浜と訴求したほうがかっこいいというふうに説得してしまつたところがあつて、それでこうなつてしまつています。僕の責任も結構あるなというところなのですが、おっしゃることはよくよくわかることでもあるし、でも、中庸な点は探さなければいけないというのが僕のミッションでもあります。またつくり直してご提案をさせていただきます。

**(松野委員)**

そうですね。お願いします。

**(事務局)**

岩村副会長のお話もあつたので、こちら側としては、このマークをつける行為そのものが公益性で今回特例で許可をすることに、どうかなという考えで調整を始めたところもあるのですが、ベイスターズというのは単なる一企業ではないし、このマークそのものをつけることは多少公共的な意味合いもある

のではないかというご意見もあったので、そこを含めて再度。今、デザイナーの方もいろいろ案を練るということなのですが、余りそこを規制してしまうとかえって変なふうに来てしまったところもあると思うので、そこはこちら側で整理したいと思います。

**(岩村副会長)**

単純にしたほうがいいですよ。本当に、余り練らないほうがいいです。

**(松野委員)**

やはり、見て感じて楽しくないものはよくないです。やはり、そこに存在するだけで不快感を与えてはまずいと思います。

**(岩村副会長)**

それと、方向性を示すという話も僕はよくわからないのですが、少なくとも横浜球場は、あそこの近くまで来ればだれが見てもわかります。それで迷うということはまずないと思いますし、至るところにどこに何があるかについているのではないですか。

**(山崎委員)**

ですが、私のようにずっと長年横浜に住んでいて、しかも南区という都心部に住んでいて関内で迷子になっている人間もいるわけですから、やはり街は弱者に合わせてもらいたいなと思います。それから、横浜の人は真ん中辺にだいたい何があるかわかっていても、他所から来る人は同じではありません。横浜でタクシーに乗ると、運転手さんがホテル・ニューグランドもわからなかったりすることがしばしば。開港資料館なんていうのはまずわからなくて開港記念会館と区別できない。意外とわかりにくいのです。

**(岩村副会長)**

それはわかります。僕が申し上げたかったのは、つまりマンホールにそういう機能を全部持たせてしまうというのが過剰ではないかと思ったのです。

**(山崎委員)**

マンホール以外のところでいろいろなサインがあるとおっしゃいましたが、私はやはりそのサインがわかりにくいと思うのです。すべての外国ではありませんが、一部の国にあるように、そのサインが統一されていて番号が角々に記されているとかいう状態だとわかりやすいのですが、場所ごとに違うサインの出し方がされていると、もうわからなくなる。私はその点、日本はいまいち親切じゃないなと思うのです。

**(岩村副会長)**

一般的にそうですね。その中で横浜は、まだ頑張っているほうだと思いますが。比較の問題ですが。

**(山崎委員)**

まあ、私の場合、ほんとうに方向音痴ではあるのですが…。

**(松野委員)**

よく道案内は頼まれてするのですが、やはり皆さんわかりにくそうですね。今の話、どこから見てどちらの方向へというもので、どこからの拠点をどこにするかとした場合、要するに例えば、野球場で試合が終わって、暗くなってナイターだとあれだと思ふけれど、これから帰ろうとする人たちにこっちの方向だ、とできるかもわからない。そういう意味では、むしろ方向指示があってもそれは過度にはならないと思います。

**(岩村副会長)**

だから、星の方向でいいのではないですか。

**(大川委員)**

非常にげすな話ですが、私が最初に言った、こっちに行く中華街ですよ、300メートルです、というのは、一つ一つのマンホールに全部違うものをつくることですから、物すごいお金がかかると思うのです。

**(松野委員)**

それはお金がかかると思います。だから、僕も一番最初のお話のときに、予算の問題ですねというお話をしたのですが。

**(大川委員)**

絶対に予算がかかる。

**(岩村副会長)**

僕が個人的に考えるのですが、ですからそれは横浜の全体のサインのコンセプトにかかわることだと思います。ですからマンホールだけにそれをゆだねることではなくて。それはこれまでも都市デザイン

室を中心としていろいろやっつけられたと思います。それが、成功してるかどうかというのは、多分皆さんによって評価が分かれると思いますが、いろいろな自治体でいろいろな工夫をしていて、デザインがいいかどうかは別にしてパリなども非常に統一されていますが、それと同じような形で横浜市もこれまで頑張ってきている。その頑張ったある多くの部分をマンホールにゆだねるとというのは、僕はちょっと邪道ではないかと思うのです。ですから、何か横浜市全体のサイン計画というものがあって、その中で関内地区はこうであるべきだと思えますし、後ほどサインの話など出てくるのかもしれませんが、その中で考えていただいたほうが良いような気がします。

**(菊竹会長)**

貴重なご意見、ありがとうございます。私も一言だけ加えさせていただきますと、やはり副会長と同じように、このマンホールというのは脇役だからこそ輝ける存在だと考えております。昨年から新規に導入されるイタリアのマンホールが、日本のグッドデザイン賞に当たる賞を受賞いたしました。それは、だまし絵のようなデザインで、脇役として都市の景観の中で輝いていました。副会長がご指摘のように、そこにはサイン機能は入っていません。それで十分なのではないかと思えます。デザイン提案につきましては、きょうの委員の方々のご意見を踏まえて、方向性を示すものを入れるのか、あるいはベイスターズのロゴマークでいくのか、できれば2案ぐらい新たな提案を頂いて、時間が迫っておりますので審査部会でデザインの調整をさせていただくということでもよろしいでしょうか。

**(岩村副会長)**

はい、結構です。

**(菊竹会長)**

横浜公園は別といたしまして日本大通りにつきましては、景観がきれいに整った中で、デザインマンホールの設置がふさわしいか否か、慎重に検討をさせていただく方向でよろしいでしょうか。

**(岩村副会長)**

はい。

**(菊竹会長)**

それでは、3月に設置予定の関内駅周辺について、部会でのデザイン調整を前提にお認めいただくという方向でご了承いただいたことに致します。

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

はい。

**(菊竹会長)**

それでは、次に進めさせていただきます。

### 議案3 横浜市屋外広告物条例第19条に基づく許可の特例

#### (2) 横浜スタジアム照明塔への広告幕の設置について

・事務局及び関係事業者（株式会社横浜DeNAベイスターズ）から、横浜スタジアム照明塔への広告幕の設置について資料に基づき説明。

**(菊竹会長)**

新委員の方にとってはなじみがないかもしれませんが、委員会審議を経て、すでに何年かにわたり設置されてきた経緯がございます。今回は非常に躍動感あるデザイン提案がなされているように思います。皆様からご意見、ご質問をお願い致します。

**(岩村副会長)**

ベイスターズさんはどれがいいのですか。

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

我々はA-1か、もしくはA-2ですね。

**(岩村副会長)**

私も素直に言ってしまうと、A-2がいいなというふうに思っています。A-1もいいのですが背景が多少暗いので、スポーツということもあつたりして、この辺は周りに緑もありますので、どちらかというとなやはり白地のほうがいいかなというふうに個人的に思います。やはりB案はすごく従来型で、余り躍動感を感じない。三浦選手も大分年ですが。

**(説明者) 横浜DeNAベイスターズ**

頑張っています。

**(岩村副会長)**

それをA-2で。個人的には、これは迫力があっていいのではないかと思います。

**(松野委員)**

色目のトーンでいくと、A・Bの中間ぐらいが。明るさがもうちょっと欲しいなと思います。これの逆の話をしますと、このA-1のほうに近いのですが、現在地下鉄からおりて交番のほうに抜ける地下道の中の写真がすごい怖いです。K-1のポスターかなとか思うぐらい。躍動感というのが裏目に出て、何かこう醜いのです。これを、あっちの方向には行ってほしくない、ということは、A-1の方向ではないと思います。ひょっとするとA-2もA-1に転んでいってしまうのでは困るので、A-1とBの中間ぐらいの明るさとかトーンをお願いしたいと思います。ちなみに僕は、ベイスターズの写真で言うと、CDのカバーの表紙のようなダグアウトから何とかというものと、あと関内駅の腰板のところの横位置の俯瞰の写真とか、あの辺がすごくおもしろいなと思っています。昔の、アーリーアメリカンの頃のグラフ雑誌を見ているみたいな、ああいうトーンもそろそろ入ってきてもおもしろいかな。だから、躍動感というところすぐ日本人のカメラマンはガッとこうやってしまうけれど、もう少し、品のいいというのではなくて、こちらで言うA-1番寄りではないほう。もう少し温か味を感じるものがあるとうれしいなと思います。

**(山崎委員)**

私は、今、松野委員がおっしゃった怖い写真を見ながら来たのですが、私は怖いというよりは強そうでいいなと思いました。割と弱いイメージがあったから。ごめんなさい。

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

いえいえ、もう。事実ですから。

**(山崎委員)**

いやいや、これぐらい強そうに見えるほうが、これからやってくれるのかもしれないというのがあって、新鮮でしたし、私は結構好きだったのですよ。ああいうのはお子さんが怖がるのでしょうか。女の人には余り嫌いではないと思いますけれどもね。

**(松野委員)**

イケメンがいるといいですね。

**(山崎委員)**

いや、なかなか皆さん、イケメンですよ。

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

意識しています。

**(山崎委員)**

ですよ。よくみんなイケメンに撮ってあるなと思って、感心しながら来ました。

**(大川委員)**

これはどのぐらいの期間をつけていますか。今シーズンですか。

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

今シーズンの3月中旬から11月末までです。ですので、今は取り外しをしております。

**(大川委員)**

現場に携わっている私としては、色が明るく白に近いほど、だんだんと汚れが目立ちます。それを緩和するには、このA-1というのはそんなに汚れが目立たないかな。これを2カ月で取りかえるのだというならいいのですが。そんなふうにとちょっと感じます。A-2とB案がとても明るくていいと思うのですが、シーズンが終わる頃に成績とマッチして汚れてくる。もうみっともないという形になるのはどうか。その辺のところは難しいところですが、そのように感じます。

**(菊竹会長)**

ほかに何かございますでしょうか。

**(秋山委員)**

でも、これはすごくインパクトがありますよね。

**(菊竹会長)**

それでは、この横浜スタジアム照明塔への広告幕の設置については、お認めするという事によろしくございましょうか。

(丁承)

**(説明者) 横浜D・NAベイスターズ**

ありがとうございました。

**(菊竹会長)**

それでは、審議事項は以上になりまして、報告事項に移らせていただきます。

報告事項

**報告 1 2014年の横浜サインの取組状況について**

・事務局から、資料に基づき説明。

**(菊竹会長)**

ご報告ありがとうございました。今後、横浜サインのガイドラインについて来年度から審議が始まると思いますが、事務局の説明に対して何かご質問やご意見などございますでしょうか。

**(岩村副会長)**

2つあります。まず、ガイドライン構成のところで光害とありますよね。これに関して言うと、横浜市さんはCASBEE横浜というのをもちで、CASBEEの中で光害に関する項目があります。そこには広告物あるいはものから発する光だけではなくて、反射光、つまりグレアの話があります。ですからその辺を参考にいただければというのが1つあります。それから2つ目は、これがどういう位置づけになればいいかと思っているのですが、つまりサインというのは見える化ということだと思いますが、一方で見えない化という方向性もあると思います。うちの家内もそうですが、特に最近はどこに行くにもほとんどスマートフォンで見ます。そうするとそういうITとの関係でこのガイドラインというのはどういう位置づけになるのか、あるいは逆に、ガイドラインの中にITをどう位置づけていくのかということも、ぜひご検討いただければありがたいと思います。以上です。

**(菊竹会長)**

ありがとうございます。ほかに何かございますでしょうか。

**報告事項 2 禁止地域における展望不可案件について**

・事務局から、資料に基づき説明。

ありがとうございました。No9は調整が上手くいかなかったとのことですが、事情をご説明頂けますか。

**(事務局)**

これについては、非常に文字が多くて、車で通る方が見られる場所であったので、見た人もわかりにくいので、文字を減らすか情報を少なくしてほしいというお願いをしております。あるいは余白をちょっと多めに設けてくださいというお願いをしたのですが、これについてマンションデベロッパーとしては、一律にこういうことをやっているの禁止区域だけ情報量を少なくするというのはできない、展開としては皆さんがこれを見て同じ情報を得られるようにしたい、ということで、要は応じなかったということです。

**(菊竹会長)**

一つ一つのことに對して人力も労力もかかることだと思いますが、こういった地道な活動を引き続きお願いしたいと思います。これにつきまして、委員の皆様からご質問やご意見、何かございますでしょうか。

**(大川委員)**

このNo9ですが、要するに、こういうふうにしてくださいね、とお願いしたのだけれどもしなかったと。それで、これを認めたということなのですか。

**(事務局)**

はい。規則とルールで縛っているものであれば、規則違反であるとか条例に違反しているということが言えるのですが、これに関しましては正直なところ根拠がなくて、なるべくこうしてくださいねというお願いベースになります。相手が嫌だと言われてしまうと、行政としてはそれ以上指導すると実は過剰になってしまうことになります。

**(大川委員)**

今後はこれはどういうことになりますか。

**(事務局)**

昔は本当に、ちょっとこういうふうにお願いしますと言っても、嫌だと言う業者さんがほとんどは言わないまでも8割方そういう形だったのですが、最近は横浜市がこういうことをやっているということがだんだん恐らく浸透してきてはいます、若干ではあるのですが変えていただけるような動きにはなっています。ただ、すごく質がいいものになるかという、それはまたなかなか難しいというのが正直なところですね。

**(大川委員)**

確かに、見ても見苦しいですね。これはどこにつけてあるのかわかりませんが、車で通る人が見たとしたらまずわからないのではないですか。だから、改正してももう少し単純に見やすくという指示をしたのにもかかわらずやらない、やらないなら仕方がない、認めはしないけれども仕方がないよな、ということですか。

**(事務局)**

認めはするのですが、仕方がないと感じています。実は、屋外広告物法自体や条例もそうなのですが、その前に憲法で保証している表現の自由という非常に強いものがございまして、内容について制限するというのはできません。これは法律家の先生とかとも議論しないといけない話ではあるのですが、実は我々も内容について、例えばマンション名の一部を取ってくれとか、そこまではなかなか言えないので、余白を設けてくださいとか情報をなるべく少なくしてくださいという表現にとどめています。

**(大川委員)**

一方でNo4ですが、ここは黄色がまず自分のところのカラーになっています。だけどこれをよく認めたなど。よく聞いてくれましたね。

**(事務局)**

そうですね、黄色の彩度を落とす程度は聞いていただきました。

**(大川委員)**

でも、この辺のところは今後の問題ですね。

**(事務局)**

いわゆる指導要領みたいなものを持っていないので、ある意味事例を積み重ねていって、どういうふうなお願いをするのが一番効果的なのかなというところは、今後考えていかないとけないなと思っています。

**(大川委員)**

その間に入っているのが私たちのことなのですが。

**(事務局)**

はい、そうですね。

**(大川委員)**

相手が、お客様があることで。何としても言うことを聞いてくれない、またはNo4のように気持ちよくこうやって聞いてくださる、この辺のところは非常に難しいところですね。

**(事務局)**

おっしゃるとおりだと思います。

**(秋山委員)**

このデベロッパーさんは今回はだめだとしても、こういうことをやって皆さんもこういうふうにご協力しているのだから次回以降は協力してくださいねということを何回も言って、それであちらのほうに理解していただくというような。それは大変ですが、そういうことをやっていただければと思います。

**(菊竹会長)**

ありがとうございます。大川委員、秋山委員、貴重なご意見ありがとうございます。

**(岩村副会長)**

よろしいですか。私個人的には、原則として野立て看板とかこういう看板はどんどん少なくすべきだと思います。要は、日本の景観の最悪なものとして、野立て看板とか看板が余りにも多過ぎるということがあると思います。ですから、それは仮に少しデザインがよくなったとしても、基本的には同じです。もちろんゴルフ場の看板とか物すごいですがね。ああいうものがそもそも文化国家としてあり得べき姿なのかという非常に疑問があります。ですから、こういう規制を緩和していくという話は大反対なのです。それをどういう裏づけでやるかに関してはこれから検討しなければいけないと思います。規制は強化していくべきだと思っています。

こういう実績を積み上げながらということだと思いますが、特に禁止区域と指定された部分があるわ

	<p>けですから、その中を緩和していくというのは僕は時代の逆行だと思います。できるだけそれは緩和しない方向で議論を進めていって、実績を積み上げながら徐々に景観をよくしていきたいというのが、私の個人的な思いです。</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>若干補足します。禁止地域というふうに言っていますが、我々が最初に説明したとおり、第三者広告の禁止なのです。ですので、看板が全くないわけではなくて、自家用の普通の看板が普通にある地域も、この禁止地域と言っている中にはあるわけです。そういうところで、普通の余りデザインに工夫をされていない看板は幾つもある中で、こういうものが出てきたときにこれだけ指導することになっていきますので、そこの相手に理解させることの難しさというのも実はある、ということだけ補足して申し上げます。</p> <p><b>(菊竹会長)</b></p> <p>ほかに何かご意見ございますでしょうか。</p> <p><b>(松野委員)</b></p> <p>例えばこういうものが連続して出てきた場合。それは、ある程度指導というか、そういうことをする必要があるのでないでしょうか。僕も緩和というのは反対なのです。要するに少しでもいいものにしていこうということが部会なりに意味もあれば、そのメジャーは守るべきだと思うのですが。</p> <p><b>(菊竹会長)</b></p> <p>ここで補足をさせていただきます。今ご説明があったのですが、自社の看板は割合自由度があります。一方第三者広告は厳しい規制がある。同じ地域の中で、自由度のある自社広告と規制の厳しい第三者広告が混在することになります。この点がとても難しい問題ですが、第三者広告だけでも少しずつデザインの質を変えていこうということです。</p> <p>岩村委員と松野委員からご発言がありましたように、緩和と規制をセットで考えて、新しい広告形態を横浜からつくっていくというようなこともあると思います。今後ガイドラインも視野に、委員の皆様からご意見をいただきながら、皆様で考えていってはいかがでしょうか。</p> <p>ほかに何かご意見がございますでしょうか。それでは熱心なご議論、ありがとうございました。はじめての進行で、不手際がありましたらどうぞお許しく下さいませ。事務局も含め、何かございますでしょうか。</p> <p><b>(事務局)</b></p> <p>特にございません。</p> <p>閉 会</p>
資 料	・ 第54回横浜市屋外広告物審議会資料
特記事項	・ 本日の議事録については、各委員で確認した後、会長が最終確認する。